

「書くメディア」にあらわれる「です・ます体」のわかりやすさ

東 弘子 (愛知県立大), 加藤 良徳 (日本学術振興会), 北村 雅則 (愛知県立大),
石川 美紀子 (名古屋大学大学院), 加藤 淳 (愛知県立大), 宮地 朝子 (名古屋大)
azumah@for.aichi-pu.ac.jp

伝達のために利用できる言語・非言語情報はメディアごとに制約があるため、「わかりやすさ」の表現様式もそれに依りて変化する。対話場面では音声特徴をはじめ、情報の繰り返しや聞き手への確認、表情といった手法を用いてわかりやすさを表示できるが、そうした手法がとれない「書くメディア」では、子供向けの新聞、外国人向けの情報提供などに多くあらわれるように、わかりやすさを意図して「です・ます体」が採用されている。しかし、その「わかりやすさ」は情報伝達内容の質を変換させるような性質のものではなく、具体的な話手から具体的な聞き手に伝えられたかのような雰囲気をつくりだす、いわば「装われたわかりやすさ」である。多くの「書くメディア」において「です・ます体」がわかりやすさのマーカーとして機能しているのは、聞き手への距離を示す「です・ます」を使用することによって、具体的な話手と聞き手が共有しているかのように表現されることによるものだと考える。

1. はじめに

わかりやすさを意図した文章には「です・ます体」が採用されることが多くある。例(1)(2)は一般向けの電子百科事典とその付属の子供向け百科事典にある「カブトムシ」の項目の記述である。情報内容はほぼ同じであるが、子供向けにはやさしい単語を使用する(~~~~部が対応部分)、漢字にルビを振る、といったことに加え、文体が「です・ます体」になっている*1。

(1) IV 世界のおもなカブトムシ

カブトムシの仲間、世界で約 1000 種が知られている。なかでも最大(おおき)なのは、メキシコから中・南アメリカにすむヘラクレスオオツノカブトムシで、角をふくめた体長は 18cm に達する。同じく南アメリカにすむマルスゾウカブトムシは、角をのぞいた体長が 10 ~ 13cm と、ヘラクレスオオツノカブトムシよりも大きく、体重も 50g 以上もあり、世界でもっとも重いカブトムシである。【資料1】

(2) 世界(せかい)の大(おお)きなカブトムシの仲間(な)かまたち

カブトムシの仲間(な)かまは、世界(せかい)で約(やく)1000 種(しゅ)いるといわれています。もっとも大(おお)きいものは、メキシコから南(みなみ)アメリカにすむヘラクレスオオツノカブトムシで、角(つの)をふくめると 18センチ(せんち)もあります。おなじく南(みなみ)アメリカにいるマルスゾウカブトムシは、重(おも)さが 50 グラム以上(いじょう)もあり、世界(せかい)でもっとも体重(たいじゅう)が重(おも)いカブトムシです。【資料2】

他にも、外国人向けの情報や、わかりやすさを意図した教科書などに「です・ます体」が採用されている。(3)は外国人向けの生活情報、(4)は大学生向けの教科書である*2。

(3) こうしゅうでんわ(でんわぼくすなどの でんわ)から「110」に でんわする とき 10 えんだま、テレホンカードは いりません。むりょうです。
いま いる ところの じゅうしょが わからない とき、べんりです。じゅうしょを いわなくても けいさつが しらべる ことができます。【資料3】

(4) 「だろう」(丁寧な言い方では「でしょう」という助動詞があります。学校文法では推量を表すとされています。よく似たものに「ようだ」(話しことばでは「みたいだ」になることが多い)があります。こちらは推定と呼ばれることが多いようです。
推量と推定、よく似ていますね。実際、この2つはどちらも使える場合がよくあります。例えば、次のような場合です。【資料4】

一方、話し言葉においては、「です・ます」の使用はわかりやすさにつながる要素としては機能しない。
(5)bの場合、「です、ます」は、(5)aよりも話手と聞き手の心的距離があることの表示となっている。

(5)a A:週末はどこかに行くの?
B:どこにも行かないよ
b A:週末はどこかに行くんですか?
B:どこにも行きませんよ。

本稿では、このような「書くメディア」において生じる「です・ます体」の「わかりやすさ」の本質と、なぜ「書くメディア」において「です・ます体」が「わかりやすさ」を表示しうるのかを明らかにする。

2. 「書くメディア」における「わかりやすさ」の本質論理的わかりやすさと装幀的わかりやすさ

*1 以下、用例の下線___および~~~~は全て引用者が付した。

*2 この教科書の出版社によるレビューには以下のような記述がある。「本書は「日本語の音と形」「日本語の文法」「日本語らしい表現」「日本語の変化と多様性」の4つのセクションからなります。日本語のしくみを、最新の研究の成果をとりいれつつ、興味深いコラムをまじえながら、わかりやすくコンパクトにまとめました。」

2.1 論理的わかりやすさ

そもそも、「わかりやすい」文章とは何を指すのであろう。論文、レポートなど論理性を明確にわかりやすく表現することを目的とした場合、より正確に読者に情報を伝える工夫として、論理展開を明解に示す、情緒的、冗長な表現は避ける、などとともに、具体的な話手や聞手の存在をにおわせないような「客観的な記述」をめざすこと*3 があげられる。私的な手紙やメールと異なり、不特定多数の読者を想定する文章では、筆者の個人的立場に拠った情報の提示の仕方は避けるべきだとされるのである。

論文、レポートの書き方マニュアルの一例を挙げよう。こうした方法によれば、情報内容を明晰に正確に伝達でき、文字通り「わかりやすい」実質的文章となるのである*4。

- (6) 第一に、書き手自身の存在を強く感じさせる語・表現や、読み手に話しかけるような語・表現は、あまり使わない。たとえば、「僕」「俺」「あたし」のような語は、書き手の属性(どのような書き手であるか)を感じさせるので、論文・レポートでは基本的に使わない。一人称を指すことばはあまり使わずに書くのがよい。「私は～と思う」のような表現ではなく、「～と思われる」「～と考えられる」「～する」のような形にする。

また、「です」「ます」は使わず、普通体で書く。名詞文では、「これは例外だ」のような「～だ」の形よりも、「これは例外である」のような「～である」の形を用いたほうがよい。また、「ね」「よ」のような終助詞も使わない。【資料5】

2.2 装幀的なわかりやすさ：「です・ます体」 共在マーカーとしての機能

2.1 で確認したような情報内容についての論理的なわかりやすさに対して、「わかりやすそうな伝え方」となっているのが「です・ます体」である。(7)a は一般新聞の社説で、(7)b は類似した題材について書かれた休日版の社説である。この新聞では休日版のみ「です・ます体」が採用されている*5。部を比較するとわかるように、(7)b では「です・ます」と連動して、語彙も平日版で使用されるものとは異なりやさしいものとなっている。

- (7)a イラクに派遣された陸上自衛隊は、既に相応の責任を果たした。基本計画の修正により派遣期間は一年延長されたが、今から撤収の準備に着手すべきだ。今後、ODAの活用などを心がけたい。【資料6】

b イラクに駐留する自衛隊は、しばらく復興支援を続けることに

なりました。でも、いざれ治安がよくなれば政府開発援助(ODA)などに出番が回るはずです。【資料7】

解釈しやすい単語を利用する、漢字にルビを振るといった方法(cf.(2))は、個別な単語レベルのわかりやすさそのものによるのであるが、話手と聞手が定であり共在している発話場面において*6 話手と聞手との心的距離があることを表す要素「です・ます」が、ここでは書き言葉的な発話場面に用いられて、逆に親しみを帯びた印象を与えている。

このように、実質的には具体的な話手と聞手が存在しない不特定多数の読者に対する「書くメディア」において、特定の場、時間、人物が存在するかのような表現が用いられることがある。本稿では、そのような擬似的な共在の場を「疑似共在」の場ととらえ、それを支える言語的要素を「共在マーカー」と呼ぶ*7。個別具体的な解釈者が存在して初めて使用可能な言語要素(です、ます、終助詞など)が、「共在マーカー」として機能する。

「です・ます体」は「書くメディア」において、わかりやすいという雰囲気作りに寄与している。「です・ます」を使用した疑似共在表現を採用することと、その内容が本当にわかりやすいか否かとは、別問題である。いわば「装われたわかりやすさ」なのである。(8)は子供新聞の例であるが、内容は決して理解しやすくはなっていない。

- (8) 防衛施設庁
自衛隊と在日アメリカ軍が使う防衛施設(演習場、飛行場、港湾など)を取得し、建設や管理などを行う防衛庁の外局です。防衛施設とまわりの地域の調和をはかる施策も行います。1月30日、発注工事をめぐる談合(入札者が事前に入札価格を相談して決めること)事件で、同庁の前・現職の技術審議官ら3人が競売入札妨害の疑いで逮捕されました。発注した空調工事について、あらかじめ決めた業者が仕事を受けられるよう談合した疑いです。技術審議官は長官、次長に次ぐナンバー3のポストで、発注をとりまとめています。【資料8】

ほかにも、「わかりやすい雰囲気を出したい」文章に、「です・ます体」が多く採用されている。

たとえば、児童文学の翻訳にも、「です・ます体」のあらわれを見ることができる*8。

- (9) 「おや、はっぱのうえに ちっちゃな たまご。」おつきさまが、そらからみて いいました。
おひさまが のぼって あたたかい にちようびの あさです。

*3 森山(2003)には「ビジネスライターや新聞報道など、「個人的見方」を排すべき文章では、「私を消した」文体、すなわち「無私の文体」が必要。」とある。

*4 大島他(2005)でもレポートの作成時の点検項目として「正確さ」「明瞭さ」「客観性」という観点から同様の要点を挙げている。

*5 中日新聞では、毎日曜および、祝日や記念日などに例のような「です・ます体」社説を掲載している。中日新聞・東京新聞記事データベース参照。http://www.cnc.ne.jp/ip/ Copyright (C) The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.

*6 定延(2003)、Tannen(1982)参照。

*7 北村他(2006)参照。(NLP2006ワークショップセッション E5-2)

*8 例(9)は英語からの翻訳であるが、原作に聞手への配慮を示す言語形式は一切表れていない。(9)に対応する原文は以下のとおりである。

In the light of the moon a little egg lay on a leaf. One Sunday morning the warm sun came up and - pop! - out of the egg came a tiny and very hungry caterpillar.【資料9 b】

ぼん！と たまごから、ちっぽけな あおむしが うまれました。

【資料9a】

また、(10)～(12)はすべて『赤毛のアン』の翻訳であるが、(10)は幼児対象のダイジェスト的な絵本*9，(11)は小学生対象、(12)は小学上級から中学生を対象としたものである。

(10) 学校では、うしろのせきのギルバートが大きな
アンのちゅういをひこうと、アンのおさげをひっぱり
からかいます。

「赤毛の にんじん！」

かっとなつたアンは石ばんで、バシーン！となぐ
りました。【資料10】

(11) ギルバートは通路に手をのばし、アンの髪の毛の端を引っば
って、低い声でしたがはっきりと、「にんじん、にんじん。」とい
いました。

効果てきめん、アンはふり向ききました。怒りに燃えた目で、ギ
ルバートをにらみつけ、涙をいっぱいためて、激しくなじりまし
た。【資料11】

(12) ギルバートは通路ごしに手をのばして、アンの長い赤い髪
の毛のはしをとらえ、腕をのばしたまま、低い声ではっきりきこえる
ように「にんじん！ にんじん！」といった。

すると効果てきめん、アンは彼のほうを見た。

見ただけでなく、飛びあがった。怒りにもえた目でギルバート
をにらみつけたが、たちまちその目にはくやし涙があふれてき
た。

「ひきょうな、いやなやつ！ よくもそんなまねをしたわね！」

とアンは、はげしくなじった。【資料12】

(11)と(12)は同一の訳者による翻訳であるが、対象年齢が
高くなるにつれてより論理的な文体へ移行しているのがわか
る。

また、話手と聞手の擬似的な共在という観点から、その共
在の関係がごく近くなったととらえられる別の「わかりやすい」
スタイルがある。「です・ます体」ではなく(13)のように、直接幼
児に話しかける表現に類似したものである。

(13) ここが どこだか わかる？

ひまわりが こんなに いっぱい さいて いて、

まるで ひまわりの うみみたいでしょ！【資料13】

こうした表現は、絵本など主に幼児を対象とした文章にあ
らわれるが、「でしょ」といった確認要求のモダリティを用いる
などという手法で共在をあらわしている。話手と聞手によって
構成される親密な「わたしたち」の視点とも言えよう。これは発
達段階でまだ獲得できていない他者と自己の視点の違いに

配慮した文体とも考えられる*10。

共在マーカーはこのように「です・ます」だけではない。

例(14)は、新たに住民となった外国人に向けて名古屋市が
提供しているガイドブックの冒頭部分である。

(14) 皆様、名古屋へようこそいらつしやいました。この小冊子は、名
古屋市に来られた外国人の方々日常生活の中で不便や困
難を感じないよう、住居、教育、交通、各種インフォメーション窓
口など、生活の様々な分野にわたり日常生活に役立つ情報を
掲載したガイドブックです。(中略)

NICでは次のように中国語・ハンダ語・フィリピン語などの情
報提供や相談を実施しておりますので、お困りの時にはお気
軽にご利用ください。(中略)

名古屋市の窓口では外国人対応が十分にできないので、窓口
を訪れる場合などは、できるだけ日本語もできる方に協力して
もらつてください。【資料14】

「です・ます体」であるだけでなく、部の要素は、「話手
は客を迎え入れるホスト、聞手は外部からやってきた客」であ
ることを想定した表現である。「いらつしやいました」「来られ
た」「おります」など敬語や、「この」「来る」「てもらう」という、話
手・聞手の視点が定まって初めて使用できる動詞も、具体的
な聞手が想定されていることを表示する。

さきに見た(6)や森山(2003)で主張されていたのは、読者
が不特定である条件において、特定の場、時間、人物(イ
マ、ココ、ワタン)に結びつけないことの必要性であった。ここ
で見た共在マーカーによる「わかりやすさ」は、非共在の場
にあえて具体的な話手・聞手が存在して初めて使用可能な要
素を持ち込むことで、擬似共在の場を作り出し、伝え方をわ
かりやすく装うものといえる。

「です・ます体」のほか、終助詞、やりもらい、現場指示的
な指示語「こ・そ・あ」、「行く・来る」表現、確認要求のモダリ
ティなどが共在マーカーとして、このようなわかりやすさを支
えている。

ただし(14)の場合、「困難」「住居」といった語彙や、敬語、
やりもらい動詞の使用など文法項目の観点からは、外国人
にわかりやすい文にはなっていない。共在マーカーによるわ
かりやすさはあくまで「装われたわかりやすさ」としてのみ機
能しているといえるだろう。

3. なぜ「です・ます体」か

以上のように、「書くメディア」においては、「です・ます」以
外にもさまざまな言語要素が共在マーカーとしてわかりやす
さを表現しうることを見た。では、なぜ書くメディアにおいて
「です・ます」体が、代表的な「わかりやすい文体」として位置
づけられるのだろうか。

まず、「わかりやすさ」というのは伝達・理解に関わるコミュ
ニケーション上の要因であるが、伝達のために利用できる言

*9 幼児向けの絵本には、「ました」ではなく「ます」も多用される。イマ・ココでワタシタチが共在しているというあらわれのひとつである。

*10 幼児に話しかけるときに、母親が自分を「おかあさん」と呼び、こどもに「ぼく」と呼ぶような「いわば幼児のレベルまで降りて幼児と共感関係を密にしながらか、伝達し合おうとする努力は自然な成行きで、世界中にかなり一般的な現象である。」(伊藤(1990)p.156)ということと同質である。日本語の授受動詞(やる、もらう、くれる)の発達段階での獲得についても国立国語研究所(1977)に同様の記述がある。

語・非言語情報はメディアごとに制約がある*11。そのため、「わかりやすさ」の表現様式もそれに応じて変化する。対話場面では、トーン、速さなどの音声特徴をはじめ、情報の繰り返しや聞手への確認、表情といった手法を用いてわかりやすさを表示できるが、そうした手法がとれない「書くメディア」では、その制約の中で、特定の聞手・解釈者に向けた伝達であるかのような「擬似共有」の場において聞手に語りかける仮想の場を作り出すことで、わかりやすさが表示されていると考えるのである。

では共有マーカ―がさまざまあるうち、なぜ「です・ます体」か。それは、「です・ます」が、話手・聞手の距離を適切に保つことのできる、パブリックな場に見合ったものとして汎用性が高いことに依拠するのであろう。「です・ます」であれば、小学生から成人、外国人、まだ見ぬ人に、あるいは聞手が誰であれ、パブリックな場においても使うことができるのである。

4. おわりに

「書くメディア」における「です・ます体」は、それだけで情報の質をわかりやすく変換させるような性質のものではなく、話手・聞手の疑似共有性によって、伝える雰囲気やイメージしやすくしたものである。日本語は、場に縛られる言語であり、言文一致文体というのが具体的・個別的な場から解放された客観的文体を獲得しなければ成立せず*12、そのことが「書き言葉」の作法に強調される一方で、話手・聞手を擬似的に顕在化させた文体が、「伝わり方がわかりやすく感じられる文体」として機能しているのである。

「書きことば」が言文一致以来「広範な、多様な、抽象的な読者層に伝えられるべく」作り出された「抽象的な場」*13における表現をめざした一方で、共有の場での伝達場面を応用することで、不特定の読者をも「(ある程度)限定的、具体的な解釈者」と見なし、聞手を顕在化させる疑似共有の場を作り出すという手法の中で、わかりやすい「です・ます体」が成立したのである。

【資料】

1. エンカルタ総合大百科 2005Microsoft(R) Encarta(R) Reference Library 2005. (C) 1993-2004 Microsoft Corporation. All rights reserved.
2. エンカルタキッズ百科 2005 Microsoft(R) Encarta(R) Reference Library 2005. (C) 1993-2004 Microsoft Corporation. All rights reserved.
3. (財)愛知県国際交流協会公式HP内「外国人向け生活情報:多言語生活情報」制作:地域国際化協会連絡協議会(財)自治体国際化協会 <http://www.clair.or.jp/tagengo/general/ej-top.html> 2006/02/06 アクセス

4. 庵 功雄等(2003)『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 p.38
5. 野田春美(2005)より
6. 2005/12/09 中日新聞社説「撤収の準備に着手を」
7. 2005/12/11 中日新聞社説「週のはじめに考える 平和構築を助けるには」
8. 毎日小学生新聞 2006年2月1日
- 9a. エリック・カール『はらぺこあおむし』偕成社 1976
- b. Carle, Eric. *The Very Hungry Caterpillar*. 1969 London: Hamish Hamilton
10. 名作アニメ絵本シリーズ 54 『赤毛のアン』モンゴメリ作 著者・平田昭吾 長岡書店 1992 (p.15)
11. てんとう虫ブックス『赤毛のアン』モンゴメリ作, 村岡花子訳 小学館 1989(pp.96-97)
12. 赤毛のアン・シリーズ1『赤毛のアン』モンゴメリ原作, 村岡花子訳 ポプラ社 1978 (pp.111-112)
13. 『よいこのがくしゅう』7月号第44巻第4号(2005/7)発行企画編集 沖野陽子・高橋美佐 AD・ar inc 株式会社学習研究社
14. 『名古屋生活ガイド』第六版(2004/3)名古屋市長室国際交流課

【文献】

- 伊藤克敏(1990)『こどものことばー習得と創造ー』勁草書房
大島弥生他(2005)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現ープロセス重視のレポート作成ー』ひつじ書房
北村雅則等(2006)「伝達場面の構造と「です・ます」の諸機能」言語処理学会第12回年次大会発表論文集
定延利之(2003)「体験と知識ーコミュニケーションストラテジー」『国文学 解釈と教材の研究』48-12, 学燈社, pp.54-64
清水康行(1989)「文章語の性格」『日本語の文法・文体(下)』(講座日本語と日本語教育 5)山口佳紀編, 明治書院, pp.46-58
野田春美(2005)「ケース19 論文・レポートのことば」『ケーススタディ 日本語のバラエティ』, おうふう, pp.114-119
原田悦子(2005)「メディアと表現様式の変化; 認知工学の立場から」『講座社会言語科学2メディア』ひつじ書房, pp.118-133
森山卓郎(2003)『コミュニケーション力をみがく[日本語表現の戦略]』(NHKブックス 986)
渡辺実(1963)「現代文章の特質」『文章と文体』明治書院
国立国語研究所(1977)『国立国語研究所報告 58 幼児の文法能力』(東京書籍)
Tannen, Deborah(1982) "The oral/literate continuum in discourse," In Tannen, Deborah(ed.), *Spoken and Written Language: Exploring Orality and Literacy*, Norwood, NJ: ALEX Publishing Corp., pp.1-16

本稿は平成17年度科学研究費16720108(若手研究B:研究代表者東弘子)の研究成果の一つである。

*11 原田悦子(2005)では「相手と自分との間で共有できる情報がどのような情報なのかという「場の認識」が必ず存在し、その認識を相互に共有していることを前提として、その場に合わせた発話のデザインをしている(p.120)」ことを前提に、コミュニケーションの際に「対話の場として利用できる情報源(p.122)」の制約に対しての認識が存在することを主張している。

*12 渡辺実(1963)は「日本語が当事者的発想の言語」と主張している。

*13 清水(1989)によれば日本語という言語が、個別・具体的なある関係を持って向き合う場面において、待遇法に縛られる以上、言文一致体を獲得するためには、広範な、多様な抽象的な読者層に伝えられるべく、抽象的な「場」を作り出す必要があり、「そのためには、具体的な敬語法を提供する敬語法から自由にならなければならなかった(p.33)」とある。